

2回戦

13年春季リーグ
第1週・4月9日
2勝0敗

下川のサヨナラアーチ で勝ち点1番乗り！

専大4-5駒大

専大 0 1 0 1 1 1 0 0 0 4
駒大 2 0 1 0 0 1 0 0 1x 5



【駒大】	打安点
(4)砂川	5 0 0
(7)横嶋	2 0 0
H7齋藤	2 1 0
(6)下川	4 2 0
(8)江越	4 0 0
(5)福山亮	4 2 3
(2)木下	3 2 1
(3)柳原	2 0 0
PH前田	0 0 0
9伊藤	0 0 0
DH川合	2 0 0
DH篠原	2 1 0
(9)3西村凌	3 1 0
計	33 9 5

▽二塁打=下川、木下
▽三塁打=福山亮
▽本塁打=木下、下川

	回	打安責
片山	51/3	27 7 4
○高橋涼	32/3	12 1 0

文=池田初

写真=松井智子、山本春熙、

前日の息詰まる投手戦とは裏腹に、この日は両者合わせて3本のホームランを含む17安打の乱打戦。迎えた最終回、下川知弥(市3)がサヨナラ右越本塁打で決着をつけた。投げては片山雄貴(商2)、高橋涼平(経3)が粘りの投球で勝利に貢献。開幕カードを2連勝で勝ち点を奪取した。



ふわりと上がった白球がライトスタンドへ飛び込む。右手を高々と上げた下川がホームで仲間を迎え入れられた。「疲れた、胃が痛い」と西村亮監督も言うように、前日の投手戦とはまた違う緊張感での試合が終わる。選手たちには安堵の表情が広がった。初回、下川の左越二塁打、福山亮(経3)の右越三塁打で一気に2点を先制する。先発の片山も1回表を三者凡退に抑え、幸先のいいスタートかと思われた。だが2回以降、四球や安打で毎回走者を出すと、4回に本塁打を浴び同点に追いつかれる。その後も走者を許し6回1死満塁で無念の降板。続く高橋は窮地を1点でしのぐが、逆転を許す。その裏、女房役の木下祐志(市3)が、「超えるかな」と思ったけれど」と、バックスクリーンに飛び込む勝ち越し中越本塁打ですぐさま同点に追いつく。

この後、打線は毎回先頭を得点圏まで進めるも追加点が取れない。高橋もしり上がり調子を上げ、相手打線を翻弄。最終回、2死走者無しでこのまま延長戦に突入するかに思われたが、下川への初球、綺麗に振りぬいたバットから快音が生まれ、打球はそのままスタンドへ。「入るまでわからなかった。うれしい」と喜びを爆発させながらホームで待つ仲間に喝采を浴びた。勢いある専大に2連勝も、「まだ始まったばかり。こういう勝ちかたをどんどん増やせるように。」と主将・松本卓兵主将(地4)は勝つてさらに気を引き締めた。

松本主将が選ぶ！



今日のベストプレイヤー！「いっぱいいるけど、今日はやっぱり下川！」

ベストプレー！「下川のサヨナラホームランですね」

ROOKIES・篠原仁一郎 (31)



小さいころから野球を続けてきた中で初めて味わう、聖地・神宮球場の雰囲気。1年目にしてその地へ立つことを許された篠原仁一郎(商1)は「緊張は全くなかった」と泰然自若とした態度で打席に向かった。だが、1戦目は結果が振るわず試合終了。2戦目のスタメンから外れた。1年生ながらオープン戦での活躍が評価され手にした開幕スタメン。なんとか結果を出したい2戦目は代打として出場し、中前安打を放った。開幕カードで出場した1年生は4人もいたが、篠原が唯一の安打を記録しライバルたちに差をつける。大学野球はまだ始まったばかりだが、下級生にも期待が集まるなか、少しでもチームの勝利に貢献し、スタメン定着を目指す。(服部萌香)